

地域密着型通所介護 デイサービスもみの木苑 運営推進会議

事業所名称 デイサービスもみの木苑
 サービス種類 地域密着型通所介護
 会議開催日 令和7年3月25日（火） 14時～
 開催場所 有料老人ホームもみの木苑 1階食堂

（議題）

- 1 利用状況及び活動状況について
- 2 今後の取り組み
- 3 職員研修『人権・権利擁護』

（議事）

- 1 利用状況及び活動状況について
 - 介護度別利用者数、平均介護度

前回 2024年9月

単位：人

	事業対象者	支1	支2	介1	介2	介3	介4	介5	登録者数
男			2	4	2			1	9
女	2	5	7	11	7	3	5		40

今回 2025年3月

単位：人

	事業対象者	支1	支2	介1	介2	介3	介4	介5	利用者数
男		1	1	3	3				8
女	3	2	6	11	8	3	4	1	38

- 年齢別登録者数

単位：人

	～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～
男		1	2	1	1	3
女			3	6	9	20

○ 行事

- 1 1月 紅葉見物
- 1 2月 クリスマス会
- 1 月 初詣
- 2 月 新年会
- 3 月 桜見物

○ ヒヤリハット

- ・ 入浴後にでた洗い物を他利用者様のカバンにいれる
- ・ 持ってきた洋服をデイサービスに忘れる（本人の勘違い）
- ・ 洗濯物干し中のふらつき
- ・ シャワーチェアへの移乗時のふらつき
- ・ 送迎車からの昇降時に使用する足台を利用者様宅に忘れる
- ・ 利用者様の門扉が開かない

○ 事故報告

- ・ 異食行為 2件

○ 苦情

- ・ 寝ながら飴を舐めていた利用者様への声掛けの仕方
- ・ トイレの流し忘れ

2 今後の取り組み

- ・ SNS を使用した情報発信の強化

3 職員研修『人権・権利擁護』

施設職員へのアンケート結果

「人権・権利擁護」研修の中で、「基本的人権が尊重された支援」とは、「自分で選び、自分で決める」＝「自分らしく生きる」ことができる状態である。個人の尊厳が大切にされ、自己決定権がしっかり尊重されることが重要だと学びました。それを受けて職員に対して以下の質問をしました。その回答になります。

「もし自分が介護される立場だったら、どんな介護士に介護されたいか？」

「どんな介護を受けることで、自分らしく安心して過ごせるか？」

- ・ 優しく、常識的で、配慮をしてくれる
- ・ 親身になってくれる
- ・ 排泄介助は同性にしてほしい
- ・ 些細なことでも親身になって話をきいてくれる

- ・ 自宅で最期まで過ごしたい。そのために信頼できるヘルパーに支援を受けたい
- ・ 自分の存在を尊重してほしい
- ・ 過度に介入せず、何事も自分で選び決めることができる自立を助けてくれる
- ・ 介護知識、技術がある
- ・ 清潔感や思いやりがある
- ・ 自分の気持ちを理解してくれる
- ・ 自分のペースに合わせてくれる
- ・ 状態に合わせて適切な対応ができる、自信をもっている
- ・ 平等な立場で人を選ばない
- ・ 安心して任せられる
- ・ 明るく笑顔で接してくれる
- ・ 優しく丁寧に寄り添ってくれる
- ・ 一人にしないで、出来ることがあれば何かさせてほしい
- ・ 話を聞いて欲しい
- ・ 穏やかな言葉使いができる丁寧な人
- ・ ユーモアのある人
- ・ 体調を気遣ってくれる、不調に気づいてくれる

「どんな介護士になりたいか？」

- ・ 資格の取得
- ・ 他者の気分を害さない
- ・ 差別なく、平等に接したい
- ・ 良好なコミュニケーションがとれる
- ・ なんでも話せる職場にしたい
- ・ ストレスをためない
- ・ 思いを傾聴できる
- ・ 利用者の自己実現のためにできないかチームで取り組める
- ・ 利用者の不安な思いを和らげることができる
- ・ 利用者のしたいことに気づける
- ・ 利用者の尊厳を大切にできる
- ・ しっかりした介護ができる
- ・ 整髪や整容に気を配れる
- ・ 安心した日常生活が提供できる
- ・ 気持ちに寄り添い理解し合える
- ・ 自分の気持ちを伝えられない人の立場に立てる
- ・ 優しく接する
- ・ 感情のコントロールができる
- ・ 状況に応じて適切な行動がとれる

地域密着型通所介護 運営推進会議 報告書

事業所名…デイサービスもみの木苑

サービス種類…地域密着型通所介護

開催日時…令和7年3月25日(火)14時～15時

出席者…ご利用者様	1名
地域代表 民生委員様	1名
東出雲交番 署長様	1名
松江市介護保険課 職員様	1名
もみの木苑 職員	1名

運営推進会議議事録（意見交換）

施設：ここでの施設、デイサービスでの生活についてお話頂けますか。

利用者：施設に入ることになった時は家族から見捨てられた気持ちになった。施設の人には丁寧にしてもらっている。自分でトイレに行くことができています。

施設：自分の足で歩いてトイレに行けるって言うことはやっぱり大事ですか。

利用者：そうですね。これ（歩行器）を使って、手すりなんかに掴まりながら移動してます。

施設：人の手を借りたくないないという出来事がありますか。

利用者：そんなことはない。前は頭も自分で洗っていたけど、右手の筋を痛めて、今は洗ってもらっている。

施設：ほとんどの人がいつか介護を受けることになると思うのですが、どういう思いがありますか。

東出雲交番：今おっしゃったことについて、私も気持ちは分かる気がします。自分の親と照らし合わせて考えてみても、なかなか難しいですね。捉え方も人それぞれ違いますし、基本的には自宅の方が良いと思うのですが、実際にはそう簡単にはいかないことも多いですね。はっきりとした答えを出すのが難しく、考えれば考えるほど悩ましい問題だと感じます。

施設：介護保険課ですと、介護が必要になり始めた際の相談を受けることがあると思いますが、そういった方々を見て感じることはありますか？

市職員：事業所管理係のため、普段は利用者さんと直接お話する機会は多くありませんが、推進会議や指導で施設に伺った際にお会いすることがあります。特にグループホームでは、利用者さんが配膳や洗濯をしたりと、家庭での生活をそのまま施設で続けている様子が見られます。そうした日常の活動が、認知症の進行防止につながっているのではないかと感じています。また、自分自身が将来介護を受ける立場になることを想像することもあります。自分も両親についても、できるだけ自分たちでと考えています。しかし、実際にご家族のお話をお聞きすると、仕事をしながら介護をすることの難しさも強く感じています。

施設：「仕事を辞めて親の介護をした。今は穏やかになり、物事が落ち着いてよかったとは思いますが、当

時は本当に大変だった」とお話されているご家族様もおられました。認知症が進行し、被介護者本人も不安を感じている時期に、本当は続けたかった仕事を諦めなければならないという状況。家族の葛藤や、収入が減ることによる生活の厳しさを考えると、「大変だ」という言葉では片付けられない難しさがあると思います。

利用者さんが洗濯物を干したり、新聞を折ったりしていただくことがあります。そうした活動は、「自分の存在が誰かの役に立っている」と感じられることで、利用者さんにとっても認知症予防や自己肯定感の向上につながるのではないかと考えています。私たちが日々の関わりの中で「ありがとう」「いつも助かっています」といった感謝の言葉を伝え、こうした関係性が築かれることで、職員にとっても利用者さんにとっても、互いに尊重し合える環境が生まれるのではないかと考えられます。

民生委員：高齢者支援をされる立場として、今後の課題や自身の問題をどう捉えていくかを話し合う機会を設けることは、非常に素敵で意義深いことだと感じます。高齢者支援を担う方々がこうしたメッセージを発信し続けることは、大切な役割だと思います。また、アンケート結果にもありましたが、「自分の存在を尊重してほしい」という思いが挙げられています。私自身も、誰かのために生きていて感じられる瞬間があります。先ほど話にあったように、職員の皆さんへ感謝の気持ちを伝えたり、笑顔を見せたりすることで、職員の方々にも元気を与える存在になれるのではないのでしょうか。高齢者の方々が若い世代を元気づける大切な役割を担っていると感じました。

私自身は、幸いにも両親の介護期間は短く、仕事を続けることができました。むしろ、両親は常に家族のために何かできないかと考えて支えてくれました。そうした中で十分な恩返しができなかったことは残念に感じていますが、これを自分の子どもたちに同じようにしてあげるのは難しいと感じています。在宅での介護が困難な状況を考えると、このように通所や入居ができる施設が地域にあることは、「いざという時に頼れる場所がある」という安心感を提供してくれるのではないかと、自分の立場に置き換えて考えています。

施設：確かに、介護に関する情報やサービスが不明だと、不安が大きくなりますね。自分がどうなるのか、何を頼れば良いのかがわからないことが、怖さの一因だと思います。そうした不安を軽減するために、情報発信を行い、介護サービスの種類や利用方法、行政のサポート体制について広く知ってもらいたいと考えています。困った時に気軽に相談できる環境を作ることができればと思います。

施設：会議前に出ていた話になりますが、特殊詐欺に関しても利用者さんやそのご家族に注意喚起をすることが大切だと思います。テレビ電話で警察官を名乗って偽の警察手帳を見せるような詐欺が増えていってはおりましたが、警察や行政が直接個人とやり取りをするなんてことはほぼないと思ってよいのでしょうか。

市職員：松江市の公式 LINE アカウントはあります。インスタグラムも活用しています。ただし、個別のやり取りはしていません。

交番：SNS での周知は良いアイデアだと思います。文字だけでは伝わりづらいことも、写真を通して伝

えることで理解しやすくなります。今日の会議についても警察が直接きて詐欺被害やその方法などを説明したということを発信するのは良いと思います。

詐欺の手口は次々と変化しており、LINE 電話を利用したものや偽の警察手帳を見せる手口が増えているようです。最近では、偽の逮捕状を見せて金銭を要求する詐欺もあります。こうした詐欺に引っかかることがないように、利用者さんやそのご家族に注意を促し、しっかりと情報を提供していきたいです。ロマンス詐欺なども依然として続いています。特に、儲け話や投資を持ちかける詐欺や、異性との交流を名目にした詐欺が見受けられます。詐欺に騙された方々は、自分が騙されているとは思わず、被害届を出すことなく終わるケースもあります。こうした詐欺が広がらないようにするためにも、情報発信を続けることが重要です。

施設：その通りですね。詐欺が増え続けている現状において、私たち施設としてもしっかりと情報発信し、地域の皆さんが安心して暮らせるような取り組みをしていきたいと考えています。東出雲や松江市全体で協力し、地域に貢献できる活動を続けていきたいと思っています。今後ともご協力をよろしくお願い致します。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございました。